

令和元年 北海道小学校長会 地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：後志地区
- 2 事例報告学校名：京極町立京極小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 中田 恭太郎
- 4 キーワード：小中連携

1 はじめに

京極町は「蝦夷富士」と呼ばれる羊蹄山の東のすそ野に広がる人口約3000人の町である。1日に8万トンも湧き出す「羊蹄のふきだし湧水」は町の代名詞となり近年では「名水の郷・きょうごく」として広く知られている。

本校は2年前に南部にあった極小規模校〈南京極小学校〉の閉校により町内唯一の小学校となった。町内全児童が集う学校とはいえ児童数148名の小規模校である。小学校と中学校が隣接するだけでなく保育園町営プール陸上競技場球場スキー場が徒歩1～2分程度の場所に集まっており教育活動の推進においては効率的で便利な環境にある。

ここでは環境上の強みを生かして取組を進めている「京極の小中連携」について紹介させていただく。

2 具体的な取組

(1) 経過

平成26年度から平成28年度まで3年間道教委の「小中連携一貫教育推進事業」の指定を受けて具体的な取組が始まった。指定が終了した平成29年度からも前年度までの取組を生かし主体的に連携し合い現在に至っている。

(2) 組織

京極町小中連携協議会

取組の初年度京極町教育委員会小中学校職員で構成する「京極町小中連携協議会」を設立。2年目からボトムアップ型の連携体制を方針として掲げ指導にあたる教員同士が現場レベルで教育上の課題解決について話し合う場を設定し現行につながる3部会制の組織となっている。

京極町教育委員会指導主事と小中の教頭・教務主任で構成する「教頭・教務会議」が実質的な事務局組織として部会ごとの具体的な取組を企画している。

3部会

『授業研究』『生徒指導』『家庭・地域連携』の3部会を構成し小中の全教職員がいずれかの部会に所属している。3部会にはそれぞれ指導主事教頭が推進役として入り内容を指導・調整している。年間4度の一斉部会の日を設定し計画に沿って活動する。

(3) 取組内容

『京極VISION[目指す15才の姿]』

義務教育9年を終えたときに身につけさせたい力を設定し小学校中学校が同じベクトルで教育活動を進めていくことを確認している。



京極VISION [目指す15才の姿]	
社会生活の基盤であり、生涯に渡って学び続けるための大事な力 中学校卒業までに身に付けさせたい力	
基礎学力 を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ☆話す、聞く、読む、書くなど、基本的な言葉の力 ☆9年間で学ぶ漢字の読み書き（常用漢字） ☆四則計算など、日常生活に結びつく算数・数学の力 ☆各教科等で学ぶ基礎的・基本的な知識・技能 ☆学習習慣（宿題や予習・復習に取り組み、自分の課題を立てて取り組む、身に付くまで繰り返し取り組む）
基本的な生活習慣 を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ☆自他の生命を守り、健康で安全な生活を送る力 （いじめ撲滅、防犯・防災、健康的な生活リズム） ☆規律正しい生活を送る力 （整理整頓、物や金銭を大切にすること、ルールや時刻を守ること） ☆より良く人と関わる力 （挨拶や返事、言葉遣い、身だしなみ、思いやり、協力、公德心）
活かす力 を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ☆見通しを持って粘り強く取り組み、学習を繰り返して次につなげる力 【主体性・意欲】 ☆各教科で習得した知識や考え方を生かして考え、自己の考えを形成したり、新しいものを生み出そうとする力 【思考・判断・創造】 ☆多様な人との意見交換や議論などを通じ、協力して課題解決を図る力 【表現・協働】

『京極の授業づくりSTANDARD』

[目指す15才の姿]の具現化を図る手だてとして小中共通の「授業の流れ」を設定している。知識・技能とともに思考力や判断力・表現力を同じ学習過程による9年間の授業の積み上げによって育てていこうとするものである。どの学校どの教科の授業もこの流れを基本に構築することを確認している。

さらに学習習慣を定着させるため小中共通の「授業のきまり」を作成し積み上げを図っている。

小中合同研修会



小中合同研修会

今年度は中学校の公開研究会に小学校の全教職員が参加し小中連携協議会の研修会とした。道徳科の授業を通して共通の学習過程のあり方について認識を深め合った。

部会ごとの取組

ア 『乗り入れ授業』(授業研究部会)

今年度は中学校の体育科教諭に高学年の授業にT2として参加していただき専門的な技能指導を担っていただいた。高学年児童と中学校教諭の接点が設けられることにより中学校入学後の指導が円滑になるということもメリットとしてあげられている。



中学校教諭による実技指導

イ 『部会研究授業』(授業研究部会)

小中隔年で教科の授業を公開し合い研究協議を行っている。主に問題解決的な学習で育てるべき学び方について共通の認識を深めている。



中学校教諭による
あいさつ運動

ウ 『生活リズムチェックシート』(家庭・地域連携部会)

小中同時期に「生活リズムチェックシート」を実施し部会において京極町の実態把握と改善の手だてについて協議している。

エ 『やさしさ・あいさつ運動(仮称)』(生徒指導部会)

今年度はそれぞれ児童会・生徒会の主催で「やさしさの木運動」「あいさつ運動」を展開。昨年度は中学校の先生が小学校の玄関ホールで児童をあいさつで迎えてくれるような「あいさつ運動」も行った。

3 おわりに

道教委の事業指定から始まった京極町の小中連携最初はお互いに違和感をもちながらの取組であったと聞いた。しかし現在児童・生徒が抱える課題を共有し合うことによって小中どちらも協働して子どもたちを育てようとする立ち位置に変化している。現在の取組はまだ子どもにとって「中学校入学への不安が少し小さくなった」くらいのものであるが今後も子どもたちの<15才の姿>に責任をもち小学校と中学校がより一層協働的に取り組むことができるような連携体制を育んでいきたいと考えている。

京極小中9年間の授業！これだけは！

1 単位時間の学習過程

教師側 → 学習のねらいを達成する為の指導の流れ
子ども側 → 課題解決や理解に至るまでの思考の流れ
教師が「教え込む」のではなく、子どもが主体的に「学びとる」学習の流れ

つかむ・見通す

☆ **課題**をつかむ

- 学習課題を自分ごとの課題として受け止める。
- 「なぜ？どうして？」「解決したい！」という意欲をもつ。

☆ **解決の見通しを立てる**

- 既習事項や生活経験と結びつけ、「何とかできるそうだ！」という解決の見通しをもつ。

導入

5-10分

↓

考える・深める

☆ **個人**でじっくり考える

- 「前に習ったことは使えないかな」「他の考え方はないかな」等、自分の力を稼働し、課題解決に向かう。
- 自分の考えを書きながら思考する。

☆ **集団**で交流し、深める

- 「ここまではできたけど、この先が…」「他の人はどうやったのかな」「やっぱりそうか！」「その考えは気付かなかった！なるほど！」等、交流を通してわからなかったことがわかるようになり、自分の考えに確信を得たりする等、学級全員で考えを共有し合い、学びを深める。

展開

25-30分

↓

まとめる・振り返る

☆ **課題**に対し、**まとめる**

- 課題に対するまとめをし、理解する。
- 知識や技能を習得する。(家庭学習で復習して定着)

☆ **自己の変容を振り返る**

- 「解決の方法がわかった」「こんなことができるようになった」「友だちの考えを聞いて納得できた」等、自分が何を学んだのかを自覚し、達成感や成就感を実感する。
- 「この場合はどうなんだろう？」「まだわからないこともある」等、新たな問いに気付く。

終末

5-10分

知的好奇心の高まり・解決する必要感・学習意欲の持続

京極町で学ぶ子の

授業のきまり

授業前

- 机をきちんとそろえ、授業が始まる前に座ります。
- 教科書、ノート、筆記用具を机の上にそろえます。

授業中

- 姿勢を正して座ります。
- よばれたら、はっきりと大きな声で「はい」と返事をします
- 話し手に体を向けて、話し手が話しやすい態度で聞きます。
- 途中で話をききまぎれに、最後までしっかりと聞きます。